

2023年12月期 第3四半期決算



補足説明資料

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2023年12月期 第3四半期決算概要
2. 2023年12月期 業績予想
3. 半導体関連事業の北海道進出について

(補足資料)テクノフレックスの概要



1. 2023年12月期第3四半期決算概要

2023年12月期 第3四半期 連結業績 1 前年同期比・予想比(1)



◆ 連結業績(前年同期比・予想比)

単位:百万円

	連結業績		前年同期比		通期予想比	
	2022_3Q	2023_3Q	伸長額	伸長率	計画値	進捗率
連結売上高	16,306	15,594	▲712	▲4.4%	22,500	69.3%
連結営業利益	2,143	1,083	▲1,060	▲49.5%	2,000	54.2%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	2,020	645	▲1,375	▲68.0%	1,350	47.8%

※ 2023年6月15日付で、当期の業績予想を修正しております。

※ 前期2Qに、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴い、法人税等調整額(益)566百万円を利益計上しております。

(ご参考)

仮に、前期の税効果566百万円が無かったとした場合の親会社株主に帰属する四半期純利益は、概ね下記のようになります。

単位:百万円

	2022_3Q	2023_3Q	前年同期比(伸長率)	
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,454	645	▲809	▲55.6%

● 連結売上高 : 前年同期比▲712百万円(伸長率▲4.4%)

- ✓ 半導体関連市場における在庫調整長期化の影響により、真空機器の売上が大幅に減少し、継手事業が減収となりました。(前年同期比▲1,878百万円)
- ✓ 防災・工事事業、自動車・ロボット事業、介護事業は、増収となりました。

● 連結営業利益 : 前年同期比▲1,060百万円(▲49.5%)

➤ 継手事業

- ✓ 半導体関連の真空機器の落ち込み等から、継手事業が減収となったことによる減益。(約▲290百万円)
- ✓ 継手事業で、原価上昇分の価格転嫁に予想以上の時間を要し、営業利益率が低下したことによる減益。(約▲360百万円)

➤ 防災・工事事業

- ✓ 原価上昇分の価格転嫁に予想以上の時間を要し、営業利益率が低下したことと、顧客要因による工事遅延等からコストが増加したことによる減益。(▲348百万円)

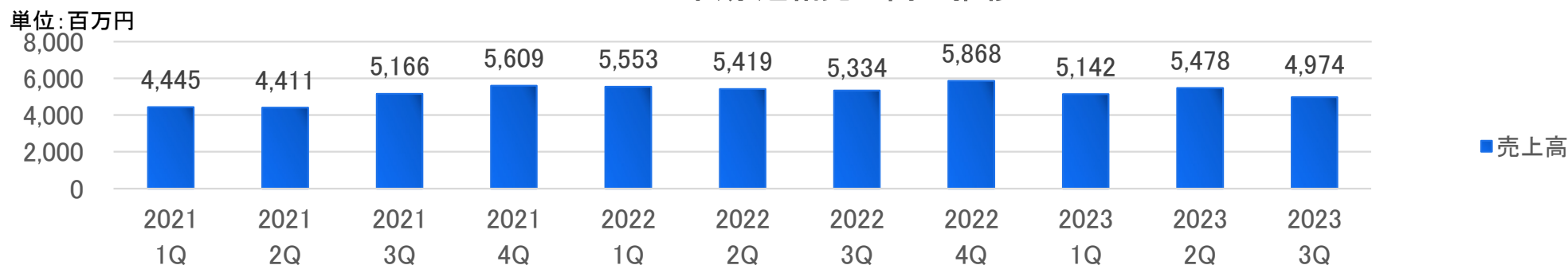
● 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 前年同期比▲1,375百万円(▲68.0%)

- ✓ 前期2Qに法人税等調整額(益)を計上した反動による減益。(▲566百万円)
- ✓ 連結営業利益の減少に伴う減益、為替影響等。(▲809百万円)

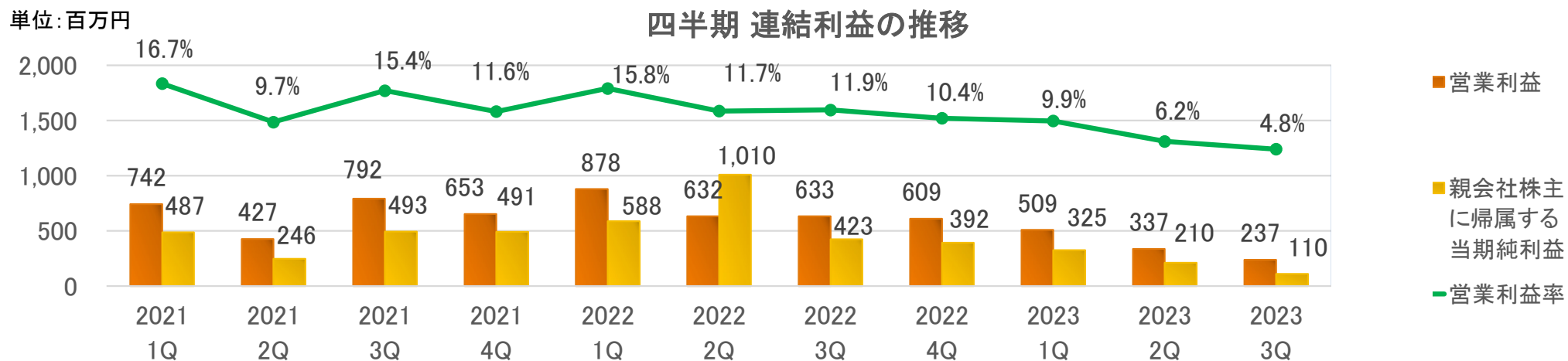
2023年12月期 第3四半期 連結業績 2 四半期業績の推移



四半期 連結売上高の推移



四半期 連結利益の推移

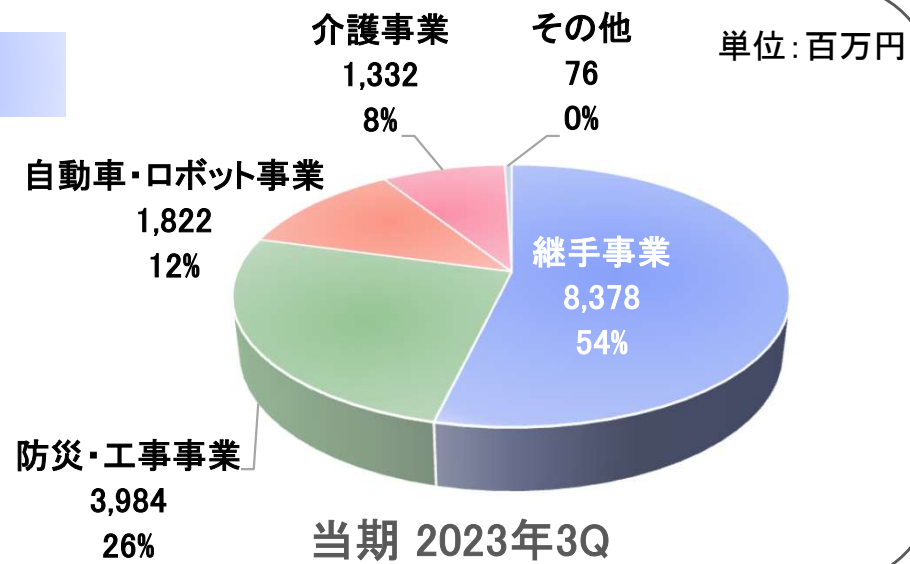
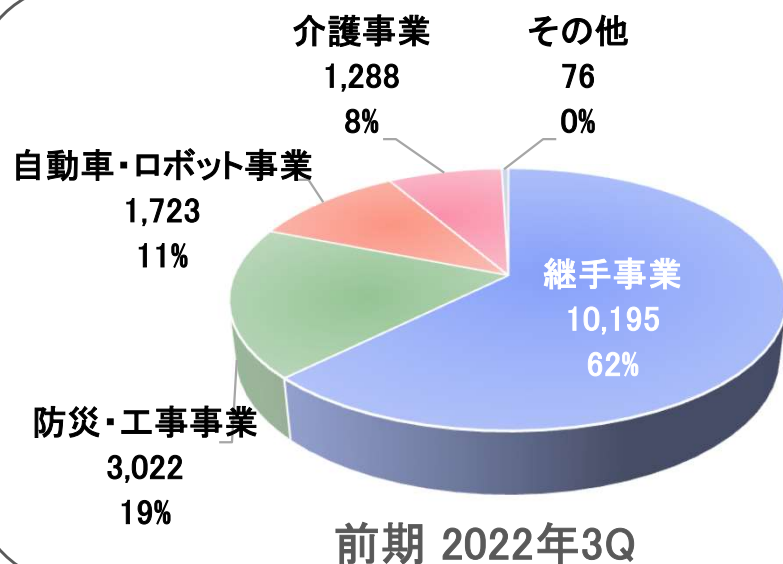


- 四半期業績は、半導体関連の設備工事(継手事業 真空機器)や消防設備工事(防災・工事事業)といった工事業が売上を計上するタイミングによって、四半期業績が大きく変動します。
特に、工事業は案件により利益率が大きく異なるため、四半期の連結営業利益が大きく影響を受けます。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。
- 当期3Qの連結営業利益率が低下しているのは、防災・工事事業の利益率低下が主な要因です。

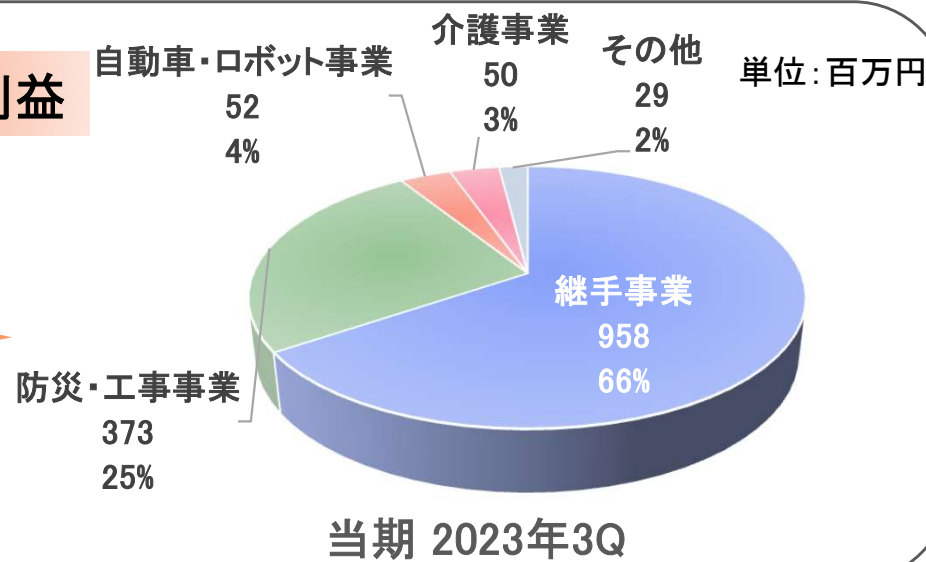
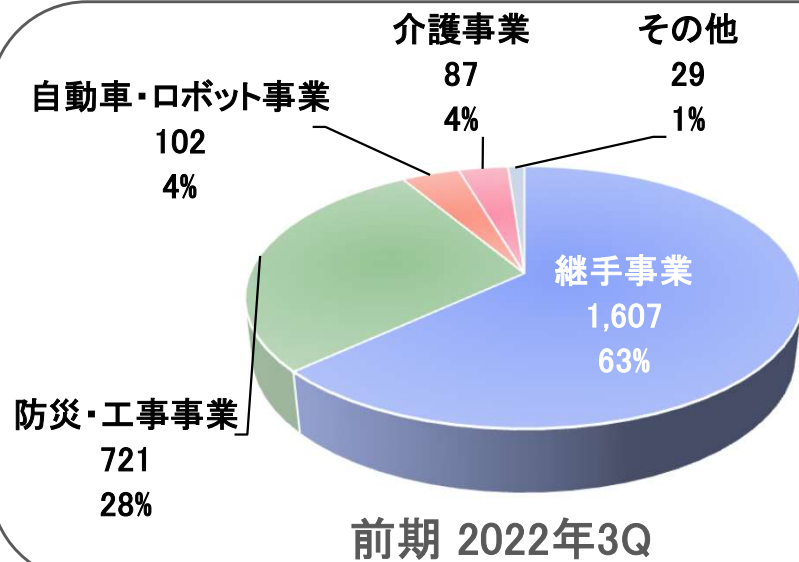
2023年12月期 第3四半期 セグメント構成比



売上高



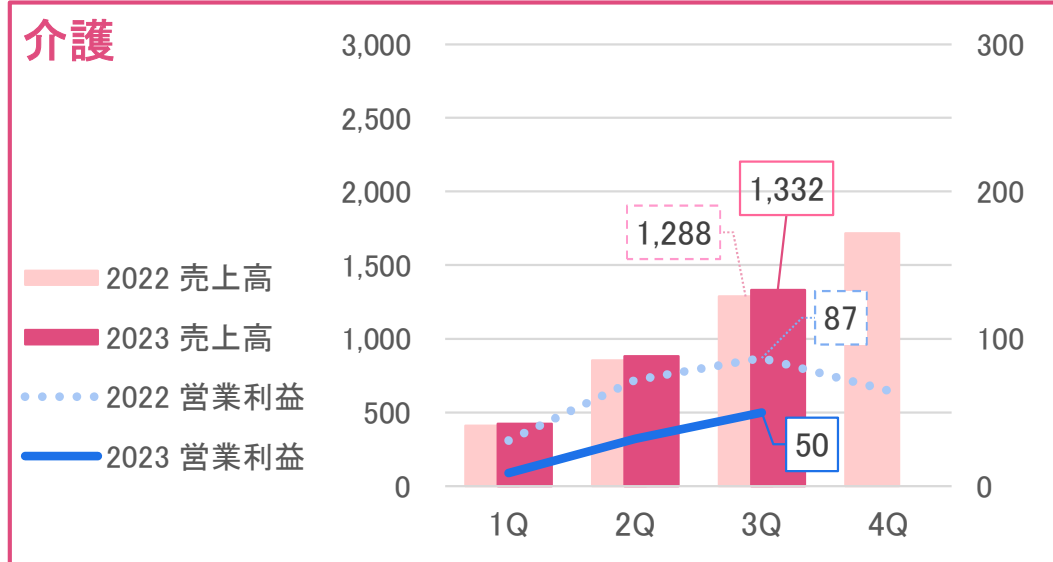
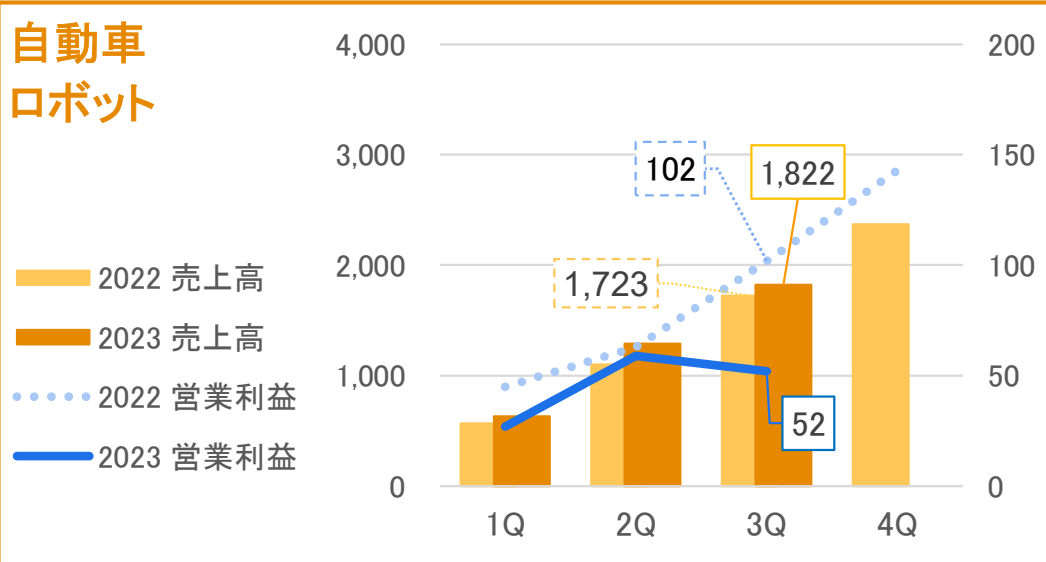
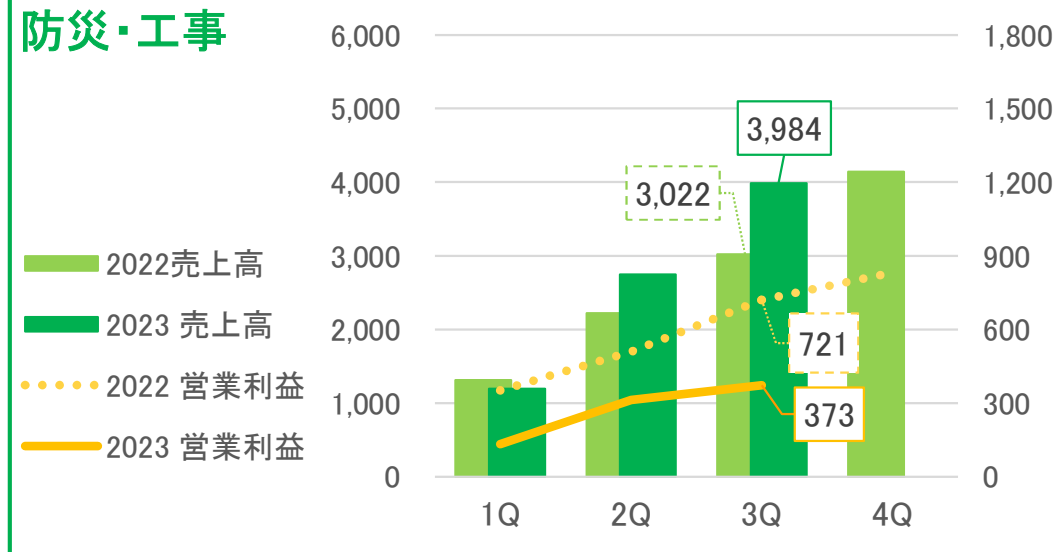
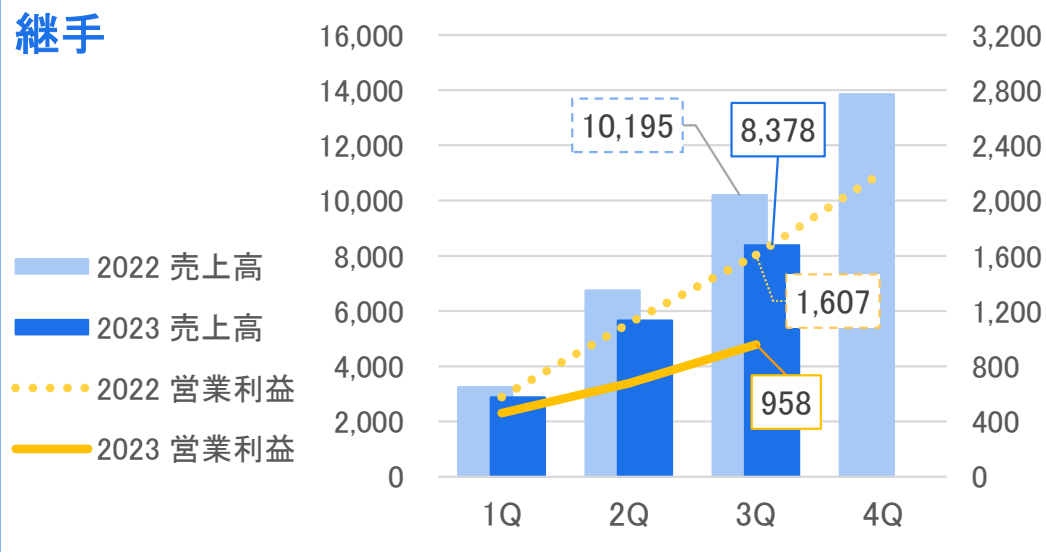
セグメント利益



2022年12月期 第3四半期 セグメント業績 前年同期比(累計)



単位:百万円



- 売上高は、継手事業が前年同期比マイナス、他の3事業が前年同期比プラスとなりました。
- 営業利益は、全ての事業が前年同期比マイナスとなりました。

2023年12月期 第3四半期 セグメント業績 1 継手事業

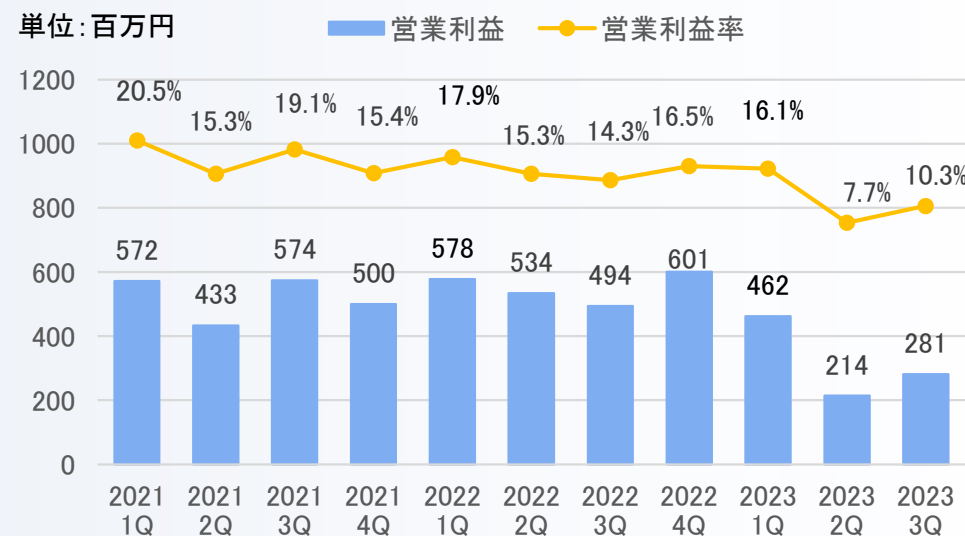


◆ 継手事業(1)

売上高の推移



営業利益の推移



● 前年同期比 : 売上高▲1,817百万円(▲17.8%)、営業利益▲649百万円(▲40.4%)

➢ フレキシブル継手

売上高は前年並み(微減)ですが、原価上昇分の価格転嫁に時間を要しており、営業利益率が低下しております。

➢ 伸縮管継手

前年上期に原子力発電分野等の特需があった反動から、前年同期比マイナスですが、概ね予想通りとなりました。

➢ 真空機器

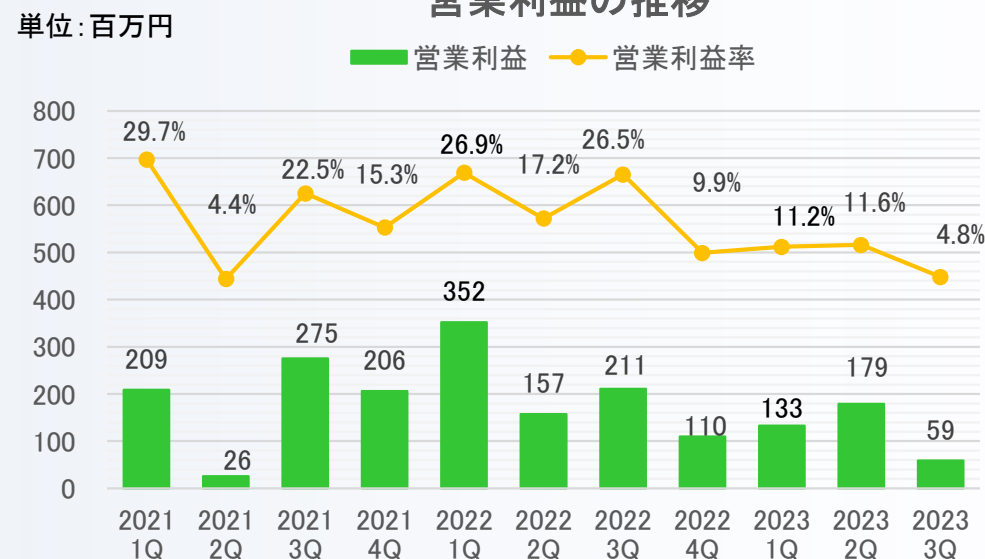
半導体市場の在庫調整長期化による影響から、前年同期比で大幅な減収減益となりました。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移



営業利益の推移



● 前年同期比 : 売上高+962百万円(+31.8%)、営業利益▲348百万円(▲48.3%)

➤ 消防設備工事

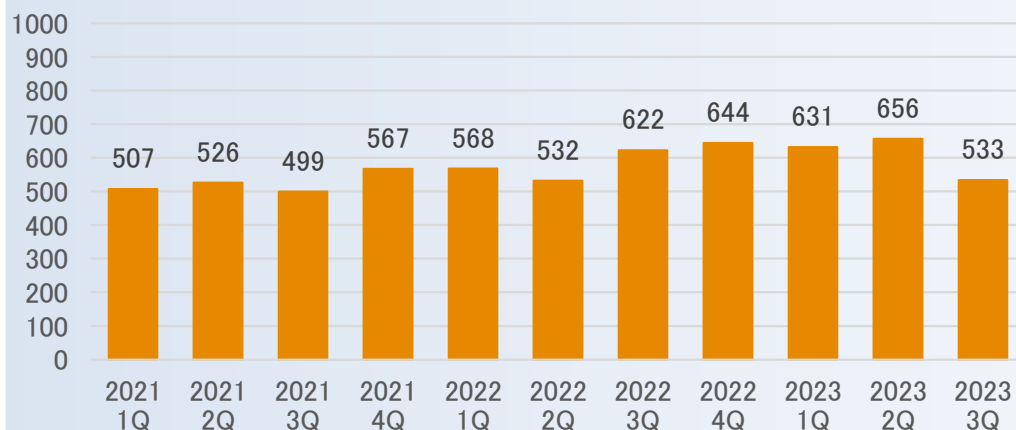
売上高は増収ですが、下記の要因から利益率が低調なため、営業利益は減益となりました。

- ✓ 原価上昇分の価格転嫁に予想以上の時間を要しており、利益率が低下しています。
- ✓ 顧客要因による工事遅延等からコストが増加し、利益率が低下しています。

◆ 自動車・ロボット事業

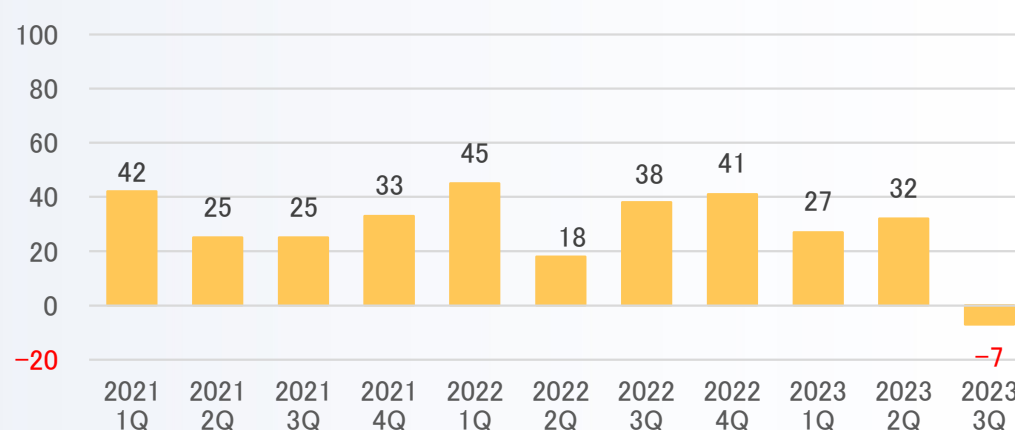
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

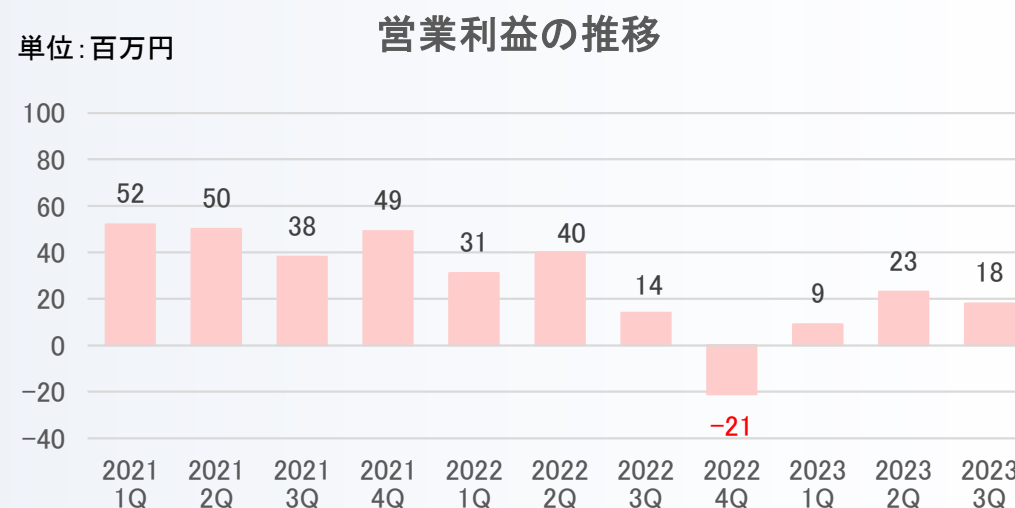
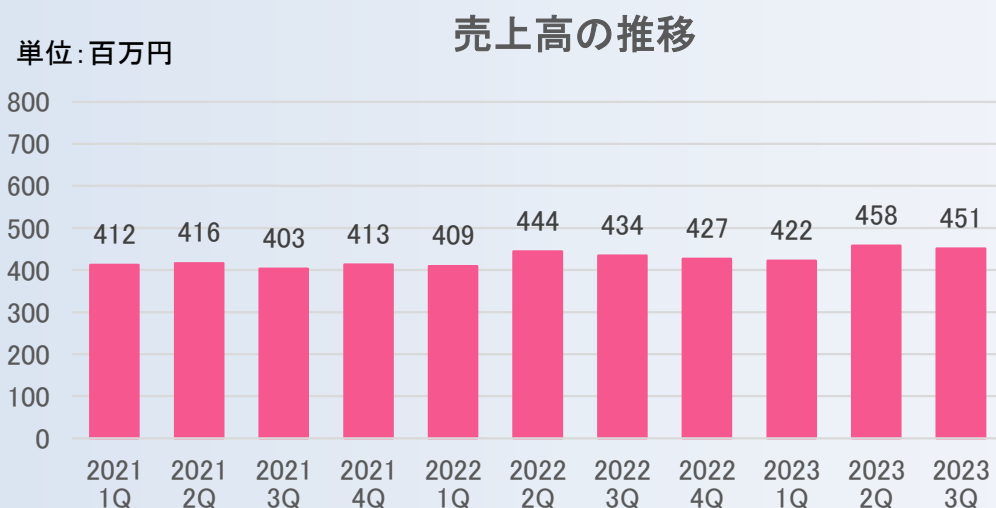
単位:百万円



● 前年同期比 : 売上高+98百万円(+5.7%)、営業利益▲49百万円(▲48.5%)

- 自動車分野は、売上高は堅調に推移しておりますが、原価上昇の影響から営業利益は減少しました。
- ロボット分野は、上期は増収増益で推移しておりましたが、原価上昇に加え、増産体制の構築にコストを費やしている最中にメーカーが生産調整を開始したため、利益率が低下し、前年同期比で増収減益となりました。

◆ 介護事業



● 前年同期比 : 売上高+43百万円(+3.4%)、営業利益▲36百万円(▲41.4%)

- 売上高は、前年同期比で微増となりましたが、利益面では、前期に他社から福祉用具レンタル事業の買収等を行ったことによる、のれん償却費等の販管費の増加と、レンタル市場の競争激化、レンタル原価の上昇、介護業界の人員不足等から、前年同期比で減益となっております。

2. 2023年12月期 業績予想

2023年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位: 百万円

	前期2022年 通期業績	当期2023年 通期業績予想 (前期比)	当期2023年 3Q累計業績 (進捗率)
連結売上高	22,174	22,500 (+1.5%)	15,594 (69.3%)
連結営業利益	2,752	2,000 (▲27.3%)	1,083 (54.2%)
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	2,413	1,350 (▲44.1%)	645 (47.8%)

※ 2023年6月15日付で、通期の業績予想を修正しております。

● 連結売上高

- ✓ 半導体市場の在庫調整が長期化しており、真空機器(継手事業)は厳しい状況です。
- ✓ 受注獲得と原価上昇分の価格転嫁を進め、売上増加を図ります。

● 連結営業利益

- ✓ 消防設備工事(防災・工事事業)が大型案件の完成時期を迎え、利益の回復が見込まれます。
- ✓ 受注獲得と価格転嫁により利益の増加を進めてまいります。

● 親会社株主に帰属する当期純利益

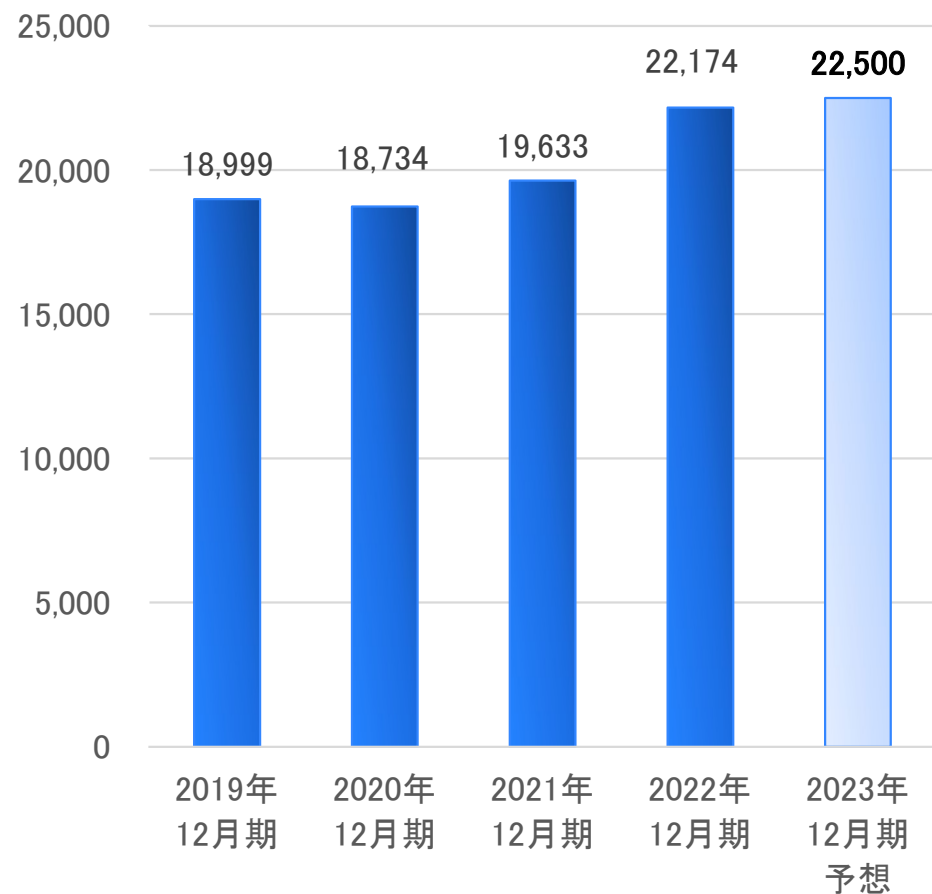
- ✓ 前期に法人税等調整額(益)566百万円を計上している反動から、期初より減益予想としております。
- ✓ 連結営業利益の上積みにより、当期純利益の確保に努めてまいります。

2023年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



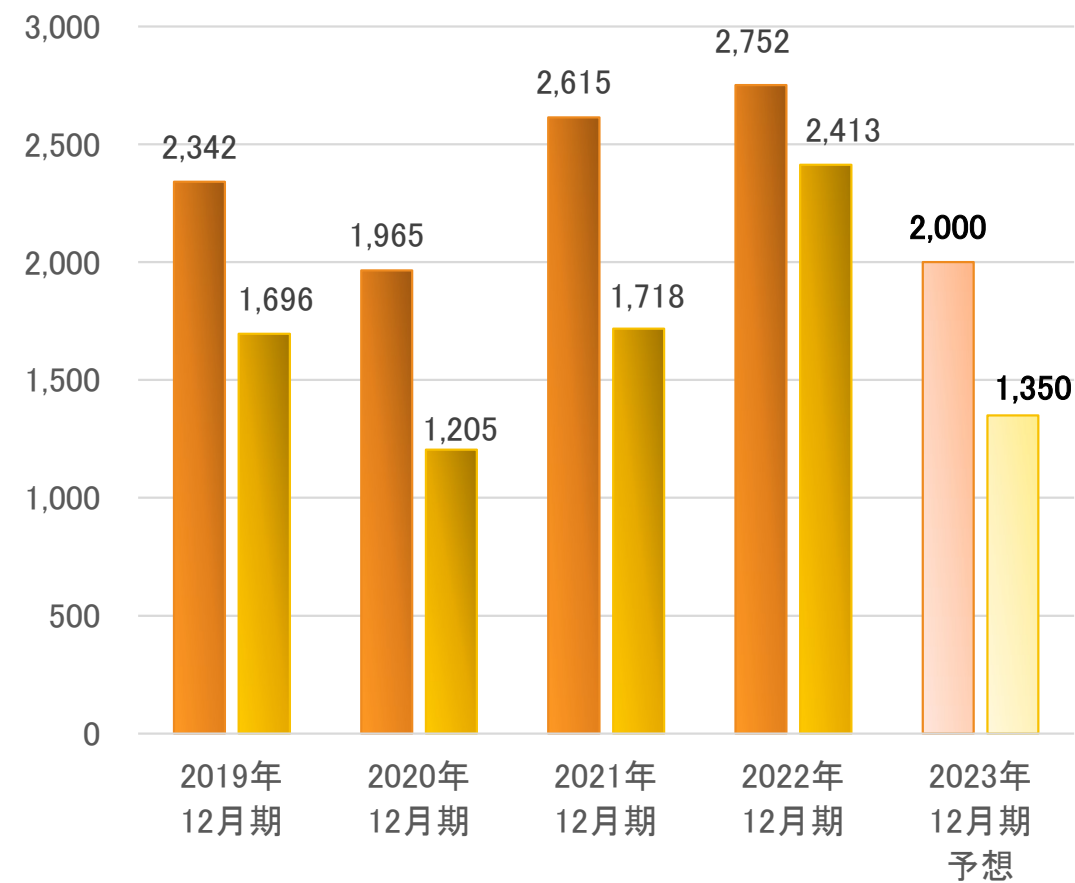
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

➤ フレキシブル継手・伸縮管継手

- ✓ 現時点で大きな変動要因は見当たらず、売上は堅調に推移する見込みです。
- ✓ 原価上昇への対応を進め、利益確保に努めて参ります。

➤ 真空機器

- ✓ 半導体市場の在庫調整が長期化していることと、半導体メーカーの大型工事が当期は実施されないことから、厳しい状況となる見込みです。

◆ 防災・工事事業

➤ 消防設備工事

- ✓ 半導体工場等の大型案件が完成を迎え、利益の回復が見込まれます。
- ✓ 原価高への対応遅れの解消と、不採算案件の再発防止に努め、利益率の回復を図ります。

◆ 自動車・ロボット事業

➤ 自動車分野

- ✓ 自動車メーカーによる生産調整や挽回生産が発生する可能性があります、通期では堅調な着地を見込んでおります。

➤ ロボット分野

- ✓ 上期は業績好調でしたが、下期はロボットメーカーによる生産調整が継続しており、厳しい状況が続く見込みです。

◆ 介護事業

- コスト高の状況が続いており、新規契約の獲得が急務であります。

3. 半導体関連事業の北海道進出について

半導体関連の事業用地を北海道苫小牧市に取得



- ◆ 当社は、北海道における半導体関連産業の発展に資するため、本年9月28日付で、北海道苫小牧市の苫東地域に、半導体関連事業用の土地約7,200㎡(約2,200坪)を、約6,500万円で取得しました。
- ◆ 現在、北海道千歳市で、最先端半導体工場の建設が進んでおり、今後、北海道では半導体関連市場の成長が見込まれています。発表によりますと、建設中の第1工場は、2025年に稼働開始予定となっており、更に、第2工場、第3工場と増設が予定されております。総額では、5兆円規模の計画と言われております。
- ◆ 当社グループでは、主に下記の3社が半導体関連の事業を展開しており、いずれも半導体工場の設備投資で需要の高まる事業であるため、半導体工場を建設中の千歳市に隣接する苫小牧市に、当社グループの事業拠点を設けることといたしました。なお、各社の北海道における事業開始時期(予定)は、下記の通りです。

会社名	事業内容	北海道での事業開始(予定)
(株)テクノフレックス	・ 半導体工場内の真空配管や半導体製造装置に使用される真空機器の製造・販売を担うメーカー業。	未定(市場動向による)
(株)TFエンジニアリング	・ 半導体製造装置や真空ポンプに真空配管を設置する真空配管工事業。 ・ 真空配管のプレハブ加工業。	2025年 初頭
ニトックス(株)	・ 半導体工場の建設時に、消火用の設備や配管を設置する消防設備工事業。	2024年 春

◆ 建設予定

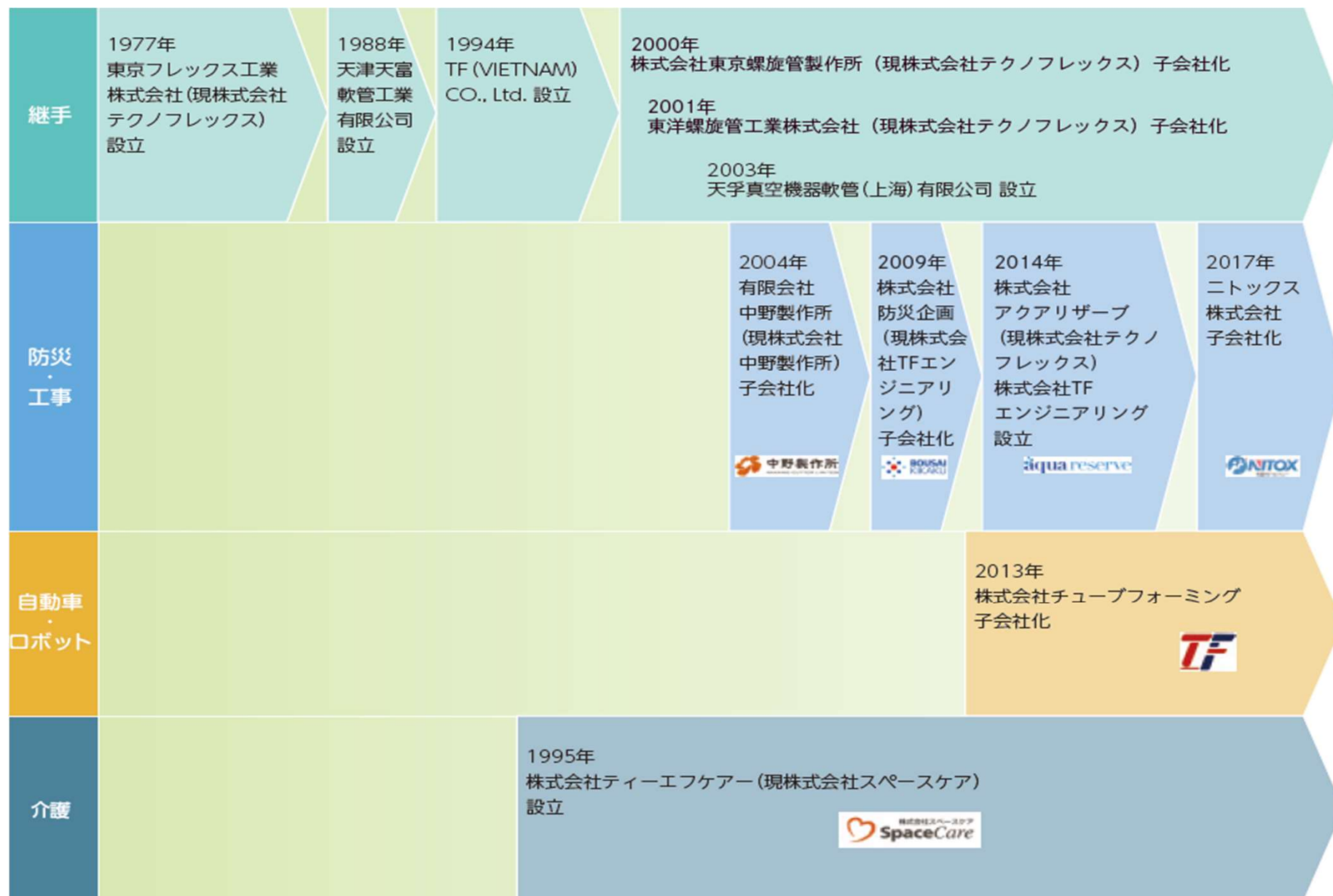
- 現在、当事業用地の一部に、北海道での事業開始が早いニトックス(株)と(株)TFエンジニアリングの配管加工工場 兼 倉庫の建設を検討中。
- ニトックス(株)は、当事業用地の工場完成を待たずに、賃貸工場で事業を開始する予定。
- 当事業用地の残りのスペースには、今後の市場動向に応じて、当社の製造工場などの建設を検討してまいります。

本件に係わる直近の適時開示情報

2023年8月10日付 「半導体関連の事業用地(北海道)取得に関するお知らせ」 (<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2325816/00.pdf>)

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円(2022年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:385名(2022年12月31日現在) 連結:1,022名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

生活インフラ

- 水道・ガス
- 水道本管に挿入されるSDFフレキ
- エネルギー
- H₂ Station
- 水素ステーション

産業・先端技術

- 半導体
- 半導体工場
- 医療機器
- MRI装置
- 自動・無人化
- 産業用ロボット

介護

- トイレに後付けされた手すり
- リフォーム
- 介護用ベッド・補助具
- 販売・レンタル
- いつも清潔な介護用品
- リネン

防災

- 断水時にマルチアクアから取水
- 風水害
- インテリジェントビル
- 地震
- スプリンクラー消火設備
- 火災

TECHNOFLEX GROUP

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



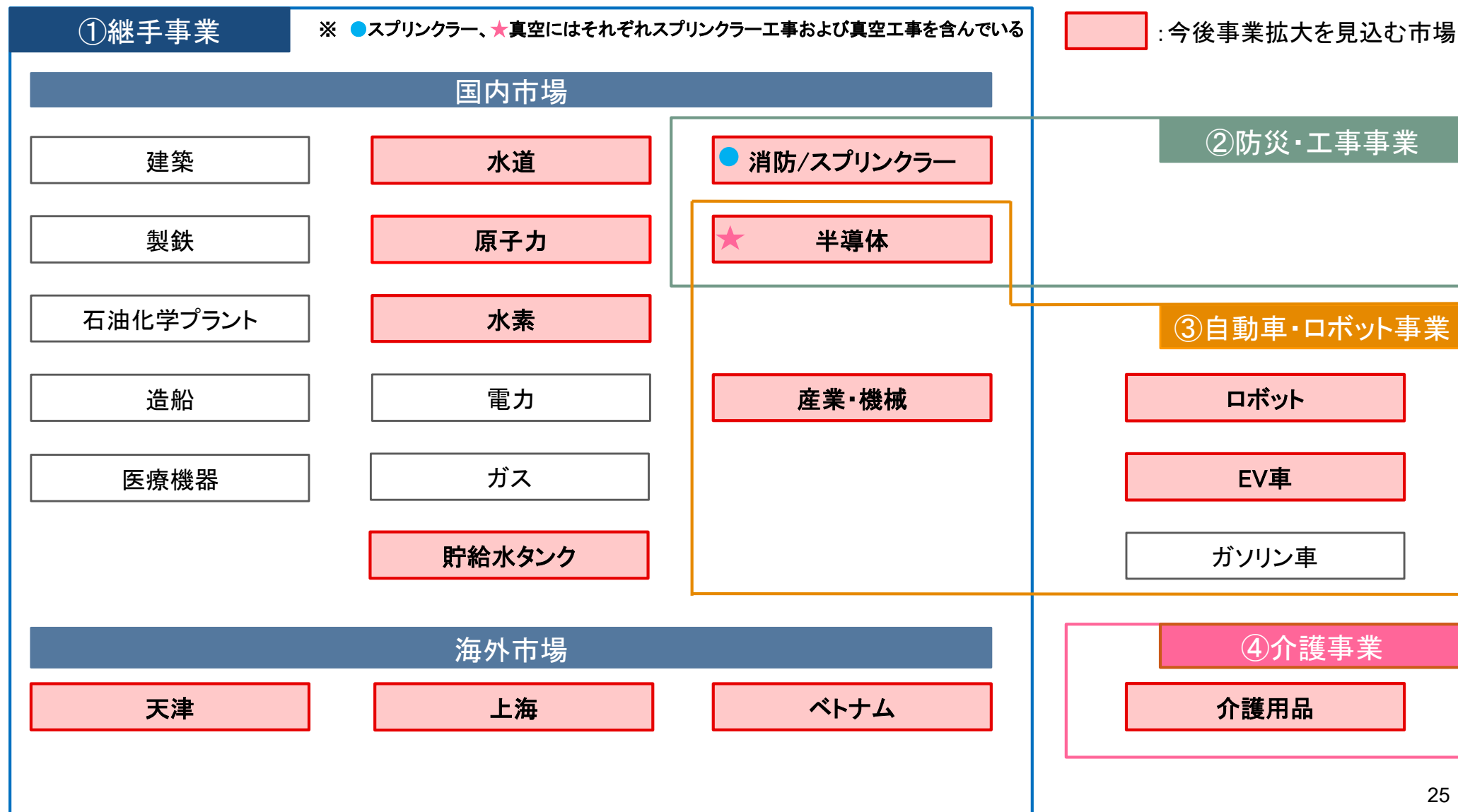
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

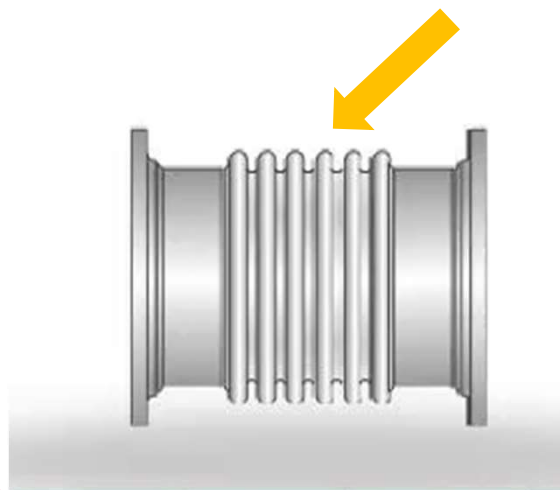
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

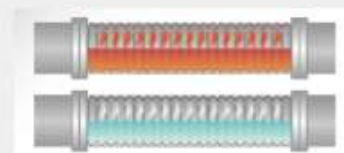
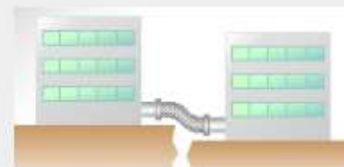


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



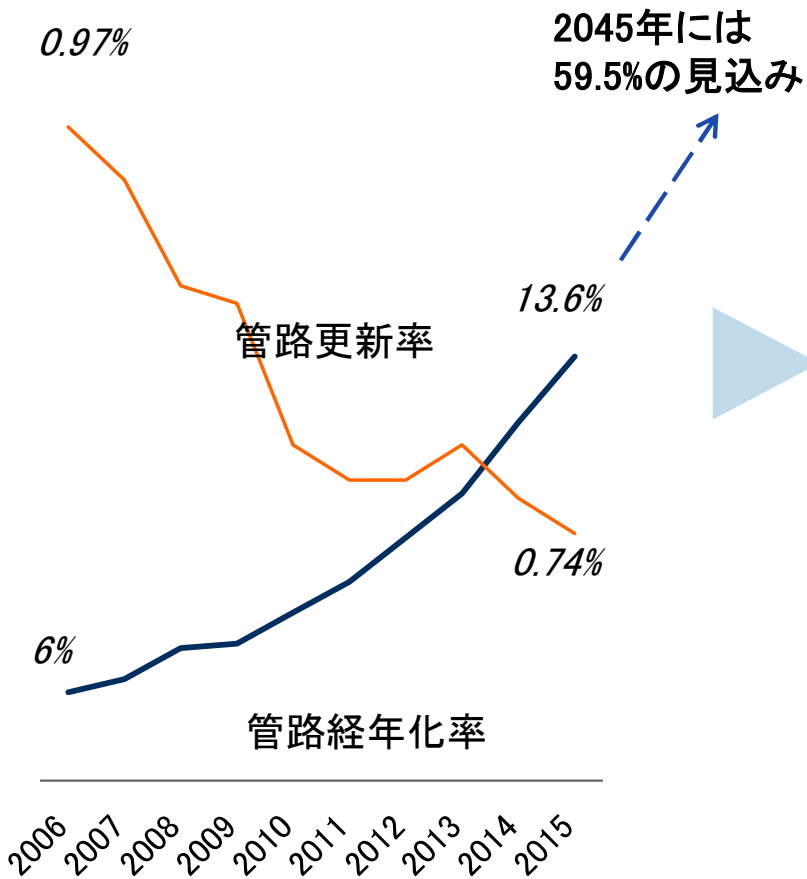
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



水道管老朽化対策
SDF工法

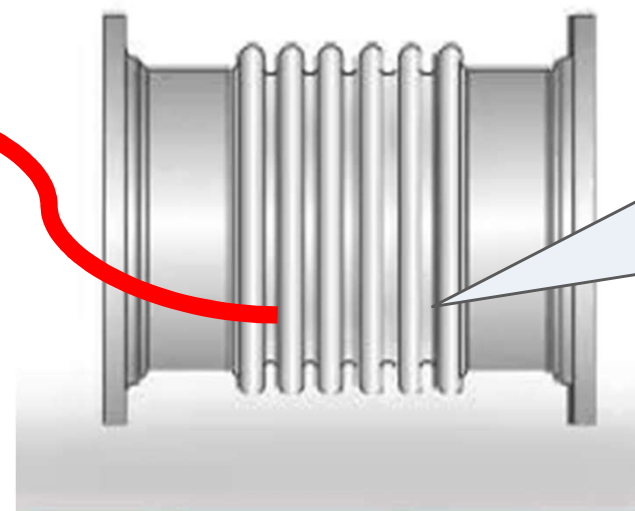
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

出所: 最近の水道行政の動向について(厚生労働省)

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

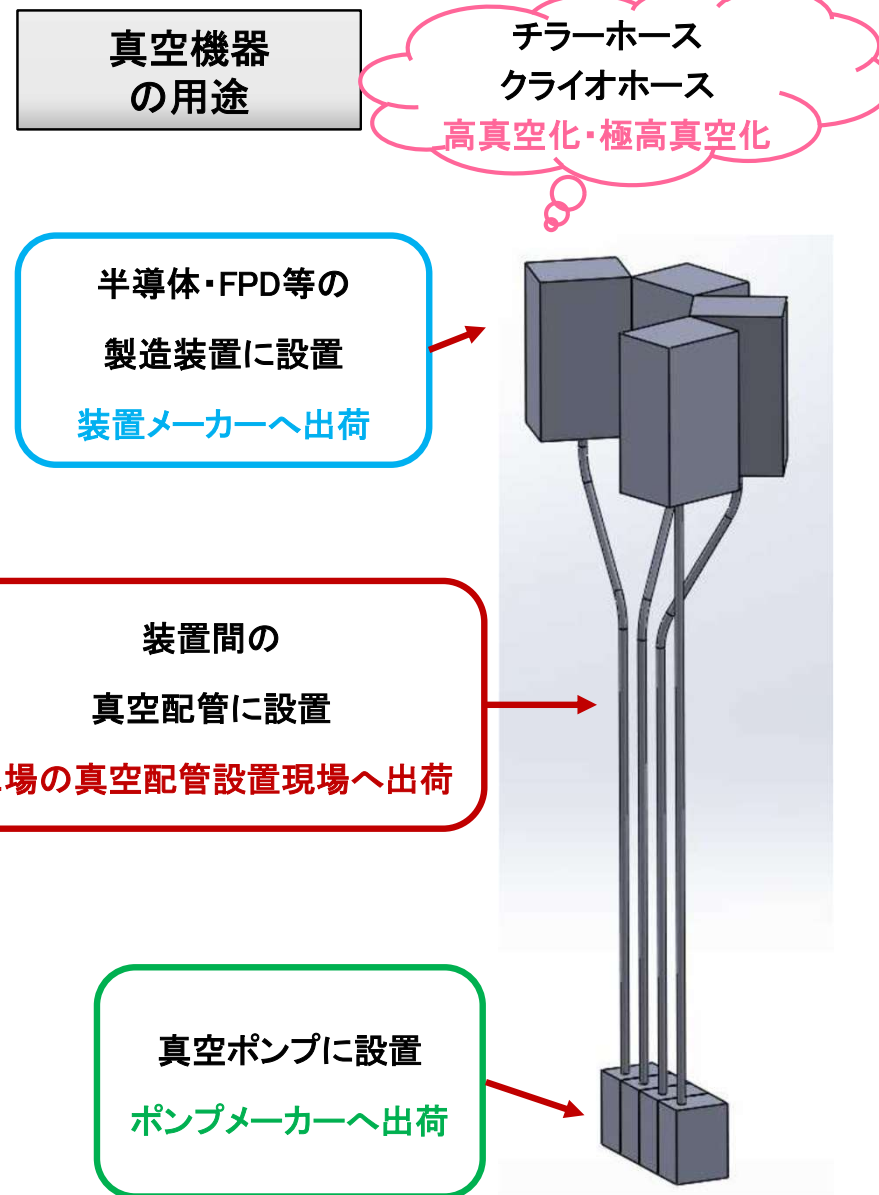


● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - 真空機器の需要が拡大。
- ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

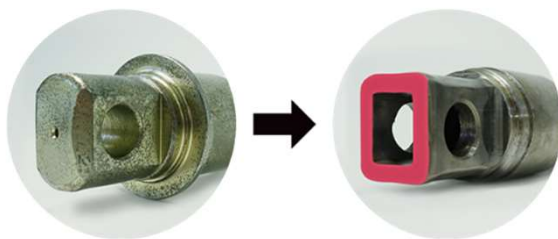
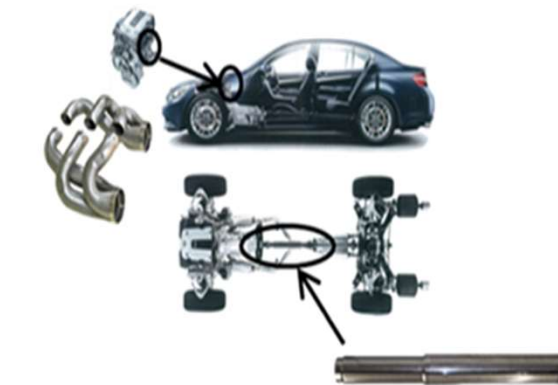
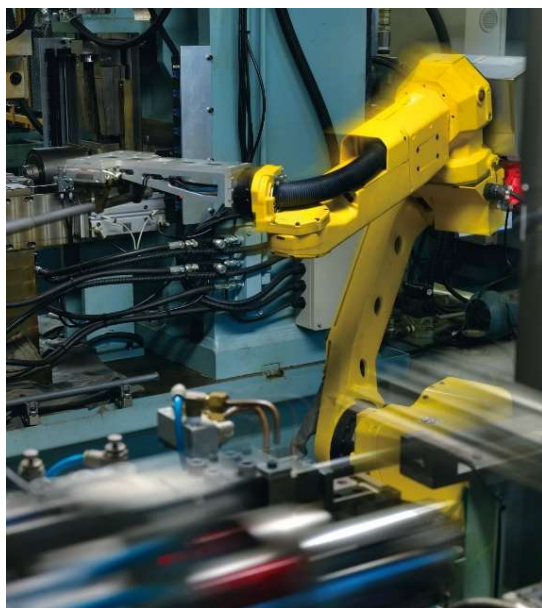
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボ ット	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

2023年12月期 第3四半期決算



決算補足説明資料 - 完 -

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449